

# 関心が高まる「地域資源」

～地方経済社会の未来を切り開く～

## 【趣旨】

「地域資源」の発掘・活用に向けた取り組みが、より積極化する動きが広がっている。今なぜ、「地域資源」なのか？ その背景にあるものを掘り下げると、地方経済社会に普遍する課題にたどり着く。

そして、世界の共通言語であるSDGsもまた、この取り組みと全く軌を一にするものであることに気づく。

「地域資源」の発掘・活用の意義を再確認し、地方経済社会の未来の姿の一端を探りたい。

## 1 県・市町村の総合戦略における「地域資源」

- 熊本地震発災の年（2016年）の12月に策定された「熊本復旧・復興4カ年戦略」が掲げる133個のKPI（重要業績評価指標）の内、45.9%（61個）が、「地域資源」の活用に関するものと集計した（当研究所）。
- 県内45市町村の地方版総合戦略（2015年策定）も、「地域資源」の活用が謳われていない戦略は無い。
- 本年度は、地方版総合戦略が一斉に改訂される。「地域資源」の活用は、更に積極化する勢いである。

図表1：「熊本復旧・復興4カ年戦略」のKPIと「地域資源」

施策	KPI数	地域資源活用
1 家族や地域の強い絆が息づく地域づくり	5	2
2 安全安心で暮らし学べる生活環境づくり	16	3
3 あらゆる状況に備える医療・福祉提供体制の構築	14	3
4 災害に負けない基盤づくり	11	2
5 地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり	17	5
6 くまもとの誇りの回復と宝の継承	8	8
7 競争力ある農林水産業の実現	18	18
8 県経済を支える企業の再生・発展	11	2
9 自然共生型産業を核としたオープンイノベーション機能の確立	3	3
10 地域資源を活かす観光産業の革新・成長	6	6
11 地域を支え次代を担う人材確保・育成	12	3
12 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化	4	4
13 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出	8	2
合計	133	61

資料) 熊本県「熊本復旧・復興4カ年戦略」より当研究所作成

## 2 「地域資源」を発掘する新手法

- 地域の地理・歴史・風土を基礎に置き、地元住民が主体となることで、「地域資源」に物語性が生まれる。
- その具体的手法が、フェノロジーカレンダー。

「地域資源」の発掘には、単に、現時点の生産量ばかりではなく、その地域の地理的な条件(特徴)や、歴史、地元住民の営みの中に息づく風土の視点が重要。

東海大学熊本キャンパスの小林寛子教授(同大学経営学部観光ビジネス学科エコツーリズム研究室)は、フェノロジーカレンダー(注)を活用し、「地域資源」を発掘する。

(注)フェノロジーカレンダー：地域の自然と人の営みを表した生活季節暦。

同教授は、村史や町史をひも解くところから始め、地元住民とのワークショップやアンケート調査、ヒヤリングを重ねて情報を集め、カードに整理し、農作業や祭など地域のイベントに学生と共に参加し、一年間を通じて取材した内容を基にフェノロジーカレンダーを住民との共同作業で作上げる。

地域の日々の営みを基礎に置くことで、その土地ならではの「地域資源」に物語性が生まれる。さらにその地域資源には旬があり、特定の場所があり、それらがカレンダーやマップという手段で発信されることで、地域の魅力がより多角的に伝わることを目指しているという。これらの地域資源を活用し、地域の住民と一緒にイベントやツアーを作る学生たちにとっては、そこがレジェンド(伝説)の地となり、卒業した後もボランティアに参加する「関係人口」とつながっていく。

図表2：フェノロジーカレンダー（南阿蘇編）



資料) 東海大学経営学部観光ビジネス学科エコツーリズム研究室 小林寛子教授  
環境省国立公園満喫プロジェクトの一環で作成 (2019年3月28日発行)

### 3 「地域資源」が注目される背景

- 熊本県の「一人当たりGDP」の伸びが止まって、20年以上が経過している。
- 「一人当たりGDP」の伸びが止まると、GDPは人口と共に減少する。
- この「地方経済ゼロ成長メカニズム」を脱却するのが、「地域資源」の発掘・活用。

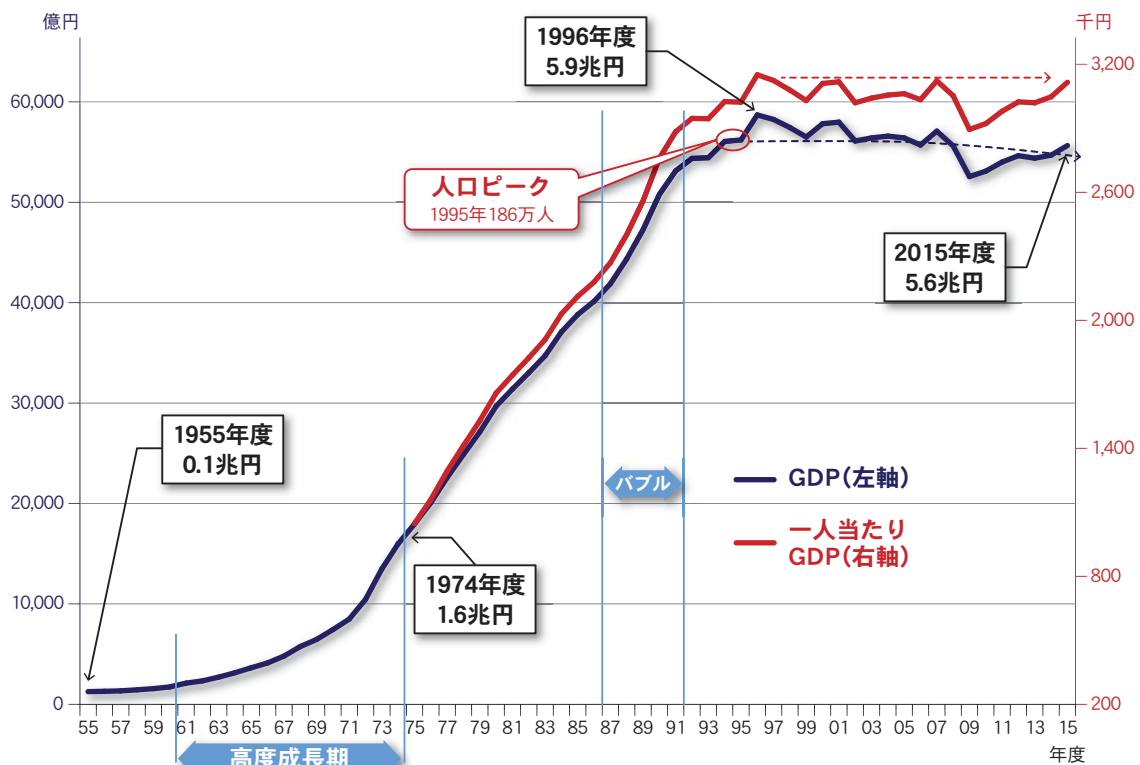
$$\begin{aligned} \text{GDP} &= \text{一人当たりGDP} \times \text{人口} \\ &= \text{域内最終需要} + \text{域際収支} (\text{移輸出} - \text{移輸入}) \end{aligned}$$

熊本県のGDPの成長が止まった要因は、人口が1990年代半ばから減少に転じ、「域内最終需要」の伸びが牽引する成長モデルが機能しなくなったためである（全国の地方経済に共通）。

この「ゼロ成長メカニズム」を脱却するには、人口減少とは無縁の「域際収支」を改善するしか道はない。

「域際収支」を改善するのが「地域資源」の発掘と活用であり、ここでもまた、他に選択肢は無いのである。

図表3：熊本県「名目GDP」と「一人当たりGDP」



資料) 熊本県「県民経済計算」「住民台帳」

**4-1** エスディジーズ **SDGsも「地域資源」を重視**

➤SDGsとは、2015年に国連が採択したもので、2030年までに人類が達成すべき17の目標（ゴール）から成る。  
 ➤そこには、「地域資源」を産業資源に転換する考え方がある。

(1)SDGsとは

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015年に国連が採択したもので、2030年までに人類が達成すべき17の目標（ゴール）と、169の達成基準（ターゲット）から成る。

図表4：SDGs（17の目標）



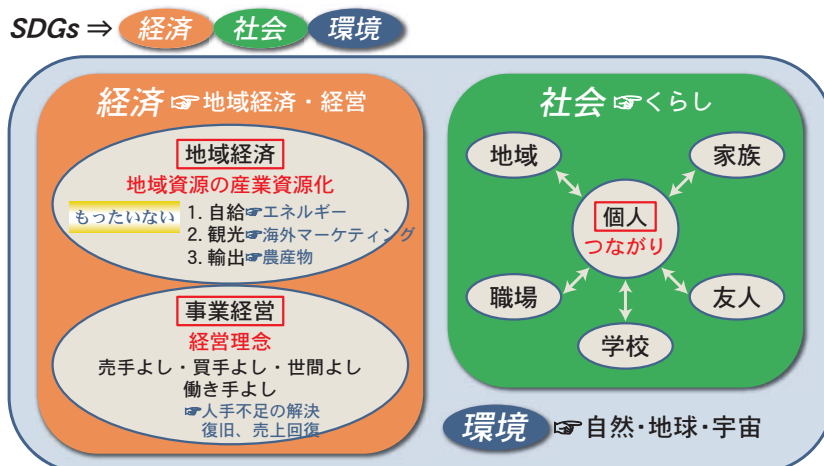
資料) 国連広報センター

(2)SDGsの経済的側面

SDGsは、「経済」「社会」「環境」の3側面をもつ。

その内、「経済」の側面には、「地域資源」を産業資源に転換する」という考え方があり、「もったいない」をキーワードに、食料・エネルギーの自給、観光産業の育成、農林水産業の移輸出等が、その内容となっている。

図表5：SDGsの3側面



資料) 当研究所作成

**4-2** エスディジーズ **SDGsから見た「地域資源」**

➤SDGsから見た「地域資源」の発掘・活用の一例は、外から買わなくて良いものまで買わず、捨てていたものを経済的資源に転換する、という考え方。  
 これは、お米の一粒を大事にする日本の原風景に通じる。  
 ➤そこにある地方経済社会の未来の姿は、'懐かしい未来' と言えるかも知れない。

(1)もったいない

SDGsの経済的側面は、「地域資源」の発掘と活用で、域際収支を改善することを目指す。その内容は、以下の3点。

- ①自給率を高める ⇨食料やエネルギー
- ②観光産業の育成 ⇨海外マーケティングと観光業の産業クラスター化
- ③移輸出の増強 ⇨農林水産物及びその加工品の域外への販売

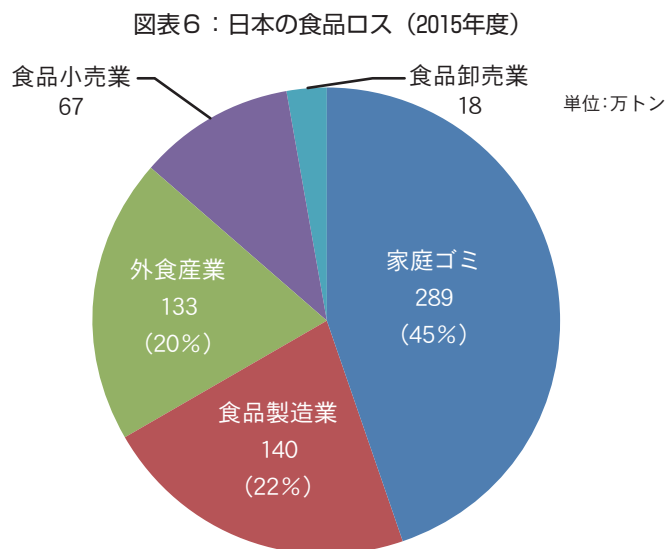
ここでは、'食料の自給' に着目してみよう。

熊本県の農産物（お米や野菜）の自給率は、1975年⇒2011年の間に、80.4%⇒65.2%、加工食品は46.5%⇒36.8%に低下している（熊本県産業関連表）。何れも、高度成長期以前は、100%に近かった数値が、激減した。これが、食品ロスと無縁ではない。

日本全体の食品ロスは、2015年度で646万トン発生しており、家庭ごみはその45%を占めている。家庭の食品ロスは、そのほとんどが、食料、肥・飼料や堆肥などに再利用されず、廃棄処分に税金が使われている。

また先日（5月7日）、東北6県にある国の行政機関が、期限切れの災害備蓄食料（1万食以上）を廃棄したことが報道された。

高度成長期以前の日本の原風景には、お米の一粒を大事にする風土があったはずである。



資料) 環境省HP「食品ロスポータルサイト」より作成



(2)懐かしい未来

右の写真は、牛深・久玉町くたまちに集積する雑節工場から立ち上がる煙と、薪用の伐採現場。

国立公園に指定されている天草地域では、豊富な広葉樹を有するが、伐採が制限されている。条件が許す範囲で「地域資源」を活用し、化石燃料の使用を避け、お金の域外流出を極力抑えている。



また、阿蘇地域には、当研究所で確認できただけでも46の家内制手工業が集積する。生産者とその家族は、必要な生産手段を自ら所有し、中心は職人による「手仕事」であり、道具の取り扱いには熟練を要する。

生産と消費が極めて近い距離にあり、資本・労働・消費を分断した工場制機械工業が創り上げた大量生産・大量消費・大量廃棄とは異なる、‘懐かしい未来’が、そこにある。

図表7：阿蘇地域に集積する「家内制手工業」

南阿蘇村			小国町			南小国			高森町			阿蘇市			西原村		
番号	工房名	内容	番号	工房名	内容	番号	工房名	内容	番号	工房名	内容	番号	工房名	内容	番号	工房名	内容
1	Aso ギャラリー	鉄のクラフト、染物	26	岡本とうふ店	豆腐・豆乳加工	30	つけものやおつけもの 平野商店	漬物製造販売	33	ガラス鉄造形工房 平井聡典	ステンドグラス、鉄	37	かずら細工ギャラリー 山棲みかこ	かずら細工	41	Wood Work こうづま	木工、布バック、小物
2	美窯房	ステンドグラス、陶芸	27	鯛工房	木工家具	31	フリースペース「棒と箱」	ランプシェード・染物	34	竹あそび	竹細工	38	ひばり工房	ハム・ソーセージ	42	木季	かずら細工
3	白水窯	陶芸	28	ふるや工房	竹細工	32	山田農園	ジャージー牛乳	35	アルカニック工房	竹細工	39	なの花工房	たかな漬	43	マツタケ・ジュン工房	陶磁器
4	Glass 兎	ガラス工房	29	雑貨来風	ハンドメイド雑貨	33	アート和紙工房白水	和紙	36	伽話屋	革工芸	40	布遊び「とき舎」	かずら細工、木工	44	薫元 天	陶芸工房
5	工房「瑞穂」	木工家具	12	Ladybug	石鹸	13	新ストープ専門店 くぬぎの森	薪ストープ、新販売	37	かずら細工ギャラリー 山棲みかこ	かずら細工	14	木之内農園	農園、ジャム加工	45	高遊窯	陶芸工房
6	家具工房 野良	木工家具	13	新ストープ専門店 くぬぎの森	薪ストープ、新販売	15	南阿蘇レストラン 葡萄の木	レストラン、ジャム加工	38	ひばり工房	ハム・ソーセージ	16	南阿蘇の水と風 めるころ	パン工房、ジャム加工	40	布遊び「とき舎」	かずら細工、木工
7	くぎの工房	木工家具	14	木之内農園	農園、ジャム加工	17	Atelier muguet	ブリザーブドフラワー	39	なの花工房	たかな漬	18	Happy cloth ♪	布小物雑貨	41	Wood Work こうづま	木工、布バック、小物
8	木工房「菜の花」	木工家具	15	南阿蘇レストラン 葡萄の木	レストラン、ジャム加工	19	Mi ☆ na	布小物雑貨	42	木季	かずら細工	20	Dropshop	布リサイクルメイク	43	マツタケ・ジュン工房	陶磁器
9	アトリエ「がらす工房」	ガラス細工	16	南阿蘇の水と風 めるころ	パン工房、ジャム加工	21	天然こうぼ	消しゴム、ハンコ	44	薫元 天	陶芸工房	22	Kleza	皮革雑貨	45	高遊窯	陶芸工房
10	南阿蘇草木染工房 COLORS	草木染め	17	Atelier muguet	ブリザーブドフラワー	23	Rin * Ran	アクセサリ雑貨	46	山田さんちの牧場	牧場、乳製品製造	24	MIHO ☆ Ribbon	スイーツデコ雑貨			
11	アート和紙工房白水	和紙	18	Happy cloth ♪	布小物雑貨	25	サンドブラスト工房 cedar	サンドブラスト									

資料) 各種資料 (HP等) を基に当研究所作成

<最後に>

- 「地域資源」に付加価値をつけ、域外に販売し、観光資源にもなる家内制手工業を、最後に紹介した。
- 「地域資源」の発掘・活用は、地域の持続可能性に直結する。特に、中山間地域の持続可能性の問題は、平野部（都市部）の住民にとっても、他人事ではないことを、No.17SDG「パートナーシップ」は問いかけている。